

## 第47回： 自然再生推進・生態系保全 — その実践ならびに評価手法を考える —

開催日： 2003年11月5日（水）／会場：<sup>ほく</sup>北とぴあ「飛鳥ホール」東京都

開催趣旨： 自然再生推進法が動き出し、また環境基準に生態系保全の視点が加えられるなど、身近な自然環境の保全に向けた動きが急となっています。このような動きそのものについては概ね多くの人に受け入れられると考えられますが、その実践あるいはその後の評価を具体的にを行うことを考えてみると、それらの手法についての議論は多くはありません。本セミナーでは、まず、身近な生態系の保全策を提示してきた背景や今後の方針等について環境省の考え方をお話いただき、ついで自然再生事業実施例の現状のほか、身近な生態系をどう把握し、評価するかについての実践例や研究例を講演いただきます。関係業界の皆様や、行政さらには市民団体など、多くの皆様の参加をお待ちしています。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 新・生物多様性国家戦略について（小野寺浩／環境省自然環境局長）
- 河川および湿原再生の原則と適用— 釧路湿原ならびに標津川の再生事業から学んだ教訓 —（中村太士／北海道大学大学院農学研究科）
- 河川生態系が周辺の生物群集に及ぼす影響（岩田智也／山梨大学大学院医学工学総合研究部）
- 底生動物を指標とした流域管理計画の可能性（安田郁子／富山県立大学短期大学部）
- どこを自然再生すべきなのか？（三橋弘宗／兵庫県立人と自然の博物館）
- 米国のミティゲーションとHEP（田中章／武蔵工業大学環境情報学部）